

函館

2016年2・3月 第46号

ハリストス正教会



発行者：函館ハリストス正教会 長司祭コライ・ド・ミトリエフ
〒040-0054 函館市元町3-13
TEL(0138)23-7387/FAX (0138)23-7939
URL <http://orthodox-hakodate.jp>
編集者：会報編集委員会 郵便振替 02660-5-1721

教会の「祝福」について

【正教会の祈祷文に見る「祝福」】

「祝福」という言葉は、一般社会でも使われる言葉ですが、正教会の信仰生活において、「祝福」とはどのような意味を持つのでしょうか。

一般社会において「祝福」という言葉は、何かおめでたいできごとがあった時、それをお祝いする(または幸せを祈る)というような文脈の中で使われます。いずれにしても親子の関係であったり、子弟の関係であったり、友人同士の関係であったり、人間と人間の関係の中で起こることです。

正教会における「祝福」は、教会の祝福です。神品を通して信徒に注がれる主・神の

祝福です。

正教会の祈祷文の中には、「祝福」に関する言葉がたくさんあります。

例えばご祈祷の始めの発放「君や、祝讚

せよ)。「祝讚」と「祝福」は教会スラブ語において同じ語根です)；「福を降せ」(「祝福して下さい」の意)；「爾の仁慈を以て今来たりし年の始めに祝福し…」(新年感謝祈祷より)；「…ものは さいわい さいわい者は福なり」(真福九端より／「主・神より祝福された者である」の意)等々。

ここで一つ気が付くのは、「祝福」の「福」という

字を「さいわい」と読むということです。一般社会では、「さいわい」は「幸い」となります。



ものいみ
▲「齋と祈祷 ————
たましい
それは 霊の双翼」

今年の大齋は3月14日(月)より始まります。
復活祭は、5月1日(日)です。

正教会での「さいわい」は「福」なのです。これは「祝福」という言葉と密接な関係があり、切り離して考えることは不可能です。

一般社会での「幸せ」が意味することは、いろいろあるでしょう。家、車などの物欲が満たされること、社会的ステータスなどの出世欲が満たされること…。

教会における「しあわせ」とは、「祝福」の「福」の文字が示すように、先ずは主・神に祝福された者であること、主・神に喜ばれる者であること、主・神から限らない恩寵を受けるに値する者であることです。

関連して、正教会では、聖人の称号(「ふく使徒」、「ふく克肖者」、「ふく致命者」など)の中に「ふく福者」というものがあります。例としてモスクワの福者聖ワシリイが挙げられますが、まさに上記のような主・神による「祝福」が顕著に顕れた聖人であったことを意味しています。

つまり、教会においての「しあわせ」とは、聖なるものであり、主・神と共にあるものなのです。

聖体礼儀の中で領聖の前に「聖なるものは、聖なる人に」という発放を私たちは耳にします。「聖なるもの」とはご聖体です。「聖なる人」とは、これから領聖に与る私たち一人ひとりが果たして聖なるものに相応しいかどうかを自問自答するための句です。

正教会は、信徒一人ひとりが主・神に祝福された者となるための正しい道を示し、またその道を歩むための力を与えます。私たちはその力を正しく受けることができる相応しい器であるべきです。私たちの たましい 霊は、神・聖神^o の器(正教会では神・聖神^o の“宮”と言います)だからです。

【「祝福」を受けるためには】

それでは教会の祝福を受けるためにはどうしたら良いでしょうか。

正教会には、教会の祝福を受けるためにあらゆるチャンスがあります。

その一つが「モレーベン」と言われる祈祷です。「感謝祈祷」は「モレーベン」の中の一つです。「モレーベン」の種類は多岐にわたり、『聖事経』という祈祷書を開くと、「病者平癒の祈祷」、「墓碑成聖」、「家屋の基礎を置くときの祝文」、「旅行安全の祈祷(陸路、水路、空路)」などがあります。

例えば信徒が旅行の前に、安全とその旅行が実りあるものであることを願って、教会で「モレーベン」を頼み、無事に戻って来たならば、教会で今度は感謝の「モレーベン」を頼むというような習慣を持つことは大変良いことです。

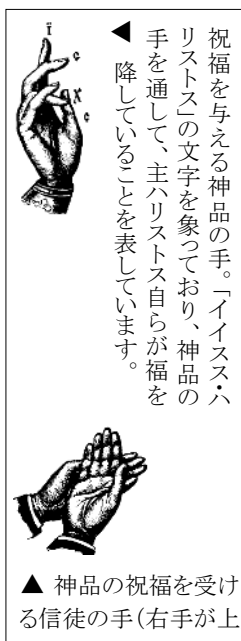
身近なところでは、私たちは教会活動を行う時、「開会の祈祷」や「閉会の祈祷」を行って主・神の祝福を仰ぎ、その祝福に対して

感謝します。

信仰生活において、教会の祝福を重んずることは大切なことです。同じことを行うにしても、教会で祝福を得て行う場合と、自分の計画と考えのみで行う場合では、そのプロセスと結果において大きな違いがあることを自らの経験において識ることができます。

(長司祭ニコライ・

ドミートリエフ)



北海道函館盲学校来堂



▲先生たちに付き添われて来堂した
函館盲学校の生徒たち

2015年12月8日(火)、北海道函館盲学校の生徒(小学部5・6年生および中学部1年生)4名が、先生3名に付き添われて来堂した。

外国の言語や文化について体験的に理解を深め、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成することを目的とした学習の一環として、盲学校より教会に依頼があったもの。

物を視覚で把握したり理解するのではなく、耳で聞いたり、手で触ったりすることによって認識する彼らのために、彼らが福音経や十字架に手で触れることについて予めセラフィム大主教座下から祝福を頂いた。また、日本盲人キリスト教伝道協議会から点字の新約聖書を送ってもらい、準備をした。

函館正教会所蔵の約100年前に作られた教会スラブ語の宝座用福音経は、表紙に金属で主ハリストスの復活と四福音者の姿が大きく浮き出ている。生徒たちは手でそれらの輪郭をなぞり、「これは誰？」と質問しながら確認していた。

初めて聞く話題でも、話された内容をすなおに受け入れ、分からないことについてはその場で質問する純真な姿勢は感動的でした。

点字の聖書は、真っ白な紙に点字の凹凸があるだけなので、点字を勉強したことがない者にとっては全く分からないのだが、生徒たちは手で凹凸を確かめながら、声に出して読んでいた。ただ、今まで読んだことも聞いたこともない教会独特の言葉が多く、不思議そうな表情であった。

帰りは雪道を歩いてバス通りまでくだり、路線バスで田家の学校まで戻るとのこと。四人の生徒に三人の先生が付き添い、障害があっても甘えることなく、できるだけ普通の生活ができるように指導している様子が伺え、頭が下がる思いであった。

後日届いたお礼状には、聖書という本に触れることができたことについて感謝の気持ちが書かれていた。



◀ 四福音者の姿を確認する



◀ 点字の聖書(日本語)を声を出して読む

降誕祭関連



▲大きなクリスマスリースが四つできました！

2015年の降誕祭関連奉事・行事として、12月6日(日)のクリスマスリース作り、20日(日)の降誕祭祝賀会、24日(木)の市民クリスマス、25日(金)の降誕祭聖体礼儀が行われた。

また、2016年1月7日(木)の旧暦の降誕祭は、在札幌ロシア総領事ファブリチニコフ氏のイニシアチブとセラフィム大主教座下の祝福に依り、ニコライ神父が札幌正教会に出張し、イアコフ篠永神父様と共に教会スラブ語で降誕祭聖体礼儀を行った。



▲余興の「お楽しみタイム」(マトロナ藤村姉による)

今年他諸行事の関係で、時間的には一時間ほどの短い祝賀会だったが、五島軒特製の“降誕祭弁当”に舌鼓を打ち、余興を楽しみながら親睦を深めた。



▲サンタさんが五人も！
(なんと無邪気な笑顔でしょう！)



▲余興の女声合唱「花は咲く」
合唱指導:アキラ大村兄



▲「市民クリスマス(2016年)」聖歌隊(練習風景より)

[市民クリスマス]

市内の合唱団の方々との“市民クリスマスジョイント聖歌隊”も7年目(7回目)となった。今年は強力なバス(島昌之氏)が応援に入り、重厚なハーモニーが聖堂に響いた。当日の来堂者は80名ほど。翌朝の函館新聞、読売新聞(道南、道央)に写真入りの記事が掲載された。

聖堂拝観奉仕の会



▲ 聖堂拝観奉仕の会による感謝祈祷



▲ 一年の総括としての反省会

例年12月25日の降誕祭聖体礼儀を以って終了する聖堂拝観。今年は、一年間の聖堂拝観の無事を主・神に感謝し、聖堂において初めて感謝祈祷が行われた。続いて信徒会館で行われた反省会では、一年間の奉仕の中で気づいたこと、経験したことについて有意義な意見交換が行われた。現在の聖堂拝観奉仕者はイリナ鈴木姉、マリヤ大谷姉、ペラギヤ南姉、エリザヴェータ加藤姉、アンヴロシイ花野兄、エカテリーナ門間姉、リュボフ下田姉、ナデジダ高島姉、ユリヤ西村姉。

年末・年始関連



◀ 元旦の陽射しの中で新年感謝祈祷（二月一日）

2015年12月31日（木）午後11時50分より年越し感謝祈祷、2016年1月1日（金）午前11時より新年感謝祈祷が行われた。いづれも風雪無く、穏やかな天候に恵まれた。大晦日午前0時の打鐘と元旦午前11時の打鐘をセルギイ入間川兄が行った。



◀ 大聖水式後の灌水（二月十七日）

1月17日（日）は、主日及び神現祭聖体礼儀の後、大聖水式が行われ、参拝者全員の頭上に今年の新たな聖水が灌水された。その後、市内「はこだて亭」に移動して新年会が行われた。エカテリーナ茂木姉とワシリー中田兄が初参加。親睦を深め、和やかな年の始めとなった。

▶ 新年会（二月十七日）



聖堂耐震診断事業について

2011年の東日本大震災の後、重要文化財に対する国庫補助の見直しが行われたことについては、執事会、主日昼食会、教会報、信徒総会などの場で触れてきたところであるが、この度、具体的な日程案について市文化財課より提案があった。耐震診断事業を2017年～2018年の二か年で行い、2019年に実施設計、2020年～2022年の三か年で耐震工事を行うという流れ。耐震診断事業も耐震工事もいずれも補助対象事業であるため、実施時期については市の財政予算と関連する。今回の耐震診断・工事の日程案は、現在で可能な最短のもので、この日程案に乗るためには、今年3月までに教会としての今後の長期活動計画及び収支計画を鑑みた上で、申請如何についての意向を固めなければならない。文建協（文化財建造物保存技術協会）の担当者及び市文化財課など専門家の説明を聞きながら、セラフィム大主教座下のご指導のもと、執事会において検討する予定。

「聖堂100年記念行事」について

今年6月26日（日）に予定されている聖堂100年記念行事について、1月24日（日）に第二回実行委員会が行われる予定。現時点での実行委員会は、執事会及び各会役員より構成する。

同時期、6月24日（金）～26日（日）に、2016年度教区会議が函館正教会を会場として行われる予定。

記念行事の会場として、26日（日）の聖体礼儀後の会食は、五島軒（王朝の間）において行われる。記念行事開催のお知らせとしてのポスター及び申込用紙の作成については、教区と諮りながら2月中に行う。6月26日（日）は、函館市主催のフルマラソンが行われるため、来函予定の知人がいる場合は、ホテルの予約を早めに行うようアドバイスをお願いしたい。



▲ 今年100歳となる
函館正教会復活聖堂（二代目）

信徒会館修理工事



▲ 壁紙が新しくなりました（トイレ）

昨年11月の執事会の検討を受けて、1月18日（月）、19日（火）、信徒会館トイレ（男女）及び事務室の壁紙（いずれも部分）の張替え工事が行われた（佐藤建設）。日頃より鈴木姉、大谷姉等が掃除・換気を行うなど気を配ってきたが、湿気のためのカビのダメージがひどく、日常的な掃除で対応するのは限界であった。6月には聖堂100年記念行事及び教区会議開催の予定も

あり、遠来の客をお迎えする準備の一環として、今回の工事を行う運びとなった。

除雪

今冬の函館は、降誕祭に全く雪が無く(ニコライ神父が赴任してから8年間で初めて)、12月は楽をして喜んでいたら、年が明けた神現祭(1/19)に湿雪が47cm降った。あまりの湿雪に教会の除雪機も雪を吹き出せず、お手上げ。結局一番確実な方法——「雪かき」で…。今年にはアキラ松原兄、イリナ鈴木姉等が除雪の奉仕をしており、司祭宅としては大変助かっている。感謝！



▲ 1月19日の境内

消息

【お願い】 下記のように、信徒の社会的な活躍が記事になりましたら、教会までお寄せ下さい。その際、新聞名「〇〇新聞」と日付の部分をつけて記事を切り抜いて下さいませようお願い致します。

〔新聞記事より〕

- ▼ キリル高井秀樹兄、道銀芸術文化奨励賞 美術部門受賞



〔新聞記事より〕

森 久子さん (96)＝函館市湯川町

▶ リディアヤ森久子姉(九六歳)「輝けシルバー」欄に紙の人形作りについて掲載された。



〔埋葬〕



▲ ウェラ吉川ツエ姉埋葬式
12月26日(土)

2015年12月24日(木)、ウェラ吉川ツエ姉(93歳)が永眠。25日(金)通夜、26日(土)埋葬式及び納骨が行われた。上磯正教会のメトリカに依ると「ウェラ中井チエ」の名前で洗礼機密の記録が残っている。喪主は二男吉川和之氏(乙部町)。火葬の後、「ハリストス正教会墓地」の共同納骨堂に納骨された。

千秋庵の新作「函館散歩」

今春の北海道新幹線開通を視野にいれ、千秋庵では新しい菓子「函館散歩」を商品化した。函館の観光スポットである「五稜郭」、「金森倉庫」、「函館ハリストス正教会」のデザインをそれぞれ型で焼いたあんこ入りのお菓子。一箱八個入り(950円税込)と五個入り(600円税込)がある。



図 版



▲「大齋の始まりおめでとう！」
(ロシアのグリーティングカード)

〔大齋期の食事及びお茶菓子について〕

- ・3月7日(月)から肉類を断ちます。
- ・3月14日(月)から肉類に加えて、卵と乳製品を断ちます。

教会での食事については、大齋を厳守します。

大齋は4月30日(聖大土曜日)まで続きます。この期間の食事のメニュー及びお茶菓子について配慮をお願い致します。

各家庭においても事情の許す範囲で大齋の食事を心がけましょう。



上磯ハリストス正教会だより

年越し感謝祈祷／降誕祭／信徒総会

2015年12月31日(木)、午後8時より聖堂において年越し感謝祈祷が行われた。

ニコライ神父の配慮で、函館正教会の年越し感謝祈祷との時間の関係を調整し、少々早い「年越し」ではあったが、午後8時から祈祷を行った。今年もアダム馬場啓示兄が参拝し、誦経されたのは嬉しいできごとだった。

2016年1月10日(日)は、降誕祭聖体礼儀、そして祝賀会が行われた。2016年最初の聖体礼儀でもあり、新たな年への主・神の祝福を頂いた。

祝賀会は例年通りマルファ佐藤姉の指導で子供たちがダンスや歌など日頃の練習の成果を発揮し、大人たちを楽しませてくれた。

続いて2015年度の信徒総会が行われ、教会財務及び活動について忌憚の無い意見交換がなされた。聖堂建物の拡張・改築に関しては、トイレの改築について業者からの図面が二種類提示された。今後、時間をかけて信徒の意見・希望を聴きながら形を作っていく方向でまとまった。教会活動については、管轄司祭の祝福・指導を受けながら行うこと、教会報(教会法で定められている公けの広報媒体)の紙面を使って、信徒に均等に情報が伝わるように配慮していくことについて話し合われた。

ニコライ神父より、「教会に参拝し、活動を行う時に一番大事なことは「心」です。どういう「心」を持って行うのかということです。正教会の教えを守って、正しい道を歩みたいという気持ちがあれば、私たちの心を見る神様は私たちの信仰生活を祝福して下さいます」と話があった。



▲ 年越し感謝祈祷(12月31日)



▲ 降誕祭祝賀会
合唱
(一月十日)



▶ 降誕祭祝賀会
ダンス
(一月十日)



▲ 信徒総会(1月10日)

《婦人会総会開催のお知らせ》

2月14日(日) 主日聖体礼儀の後、
送迎バスで会場(「しんわの湯」)に移動します。